

大口真神像・石段奉納にあたり 寛麗会講元 市村寛史

暦も九月に入ったというのに、まだまだ残暑続くここに足立の千住の町も、朝夕車の列で通りを歩くのに、一苦勞します。昭和の初め此の町の一隅に細々と家内工業を営んで居る一家が有りました。其れが私の父親でした。人に騙されやすく、賭け事は一切せず



平成19年3月25日 除幕・入魂式 奉納者 寛麗会一同 主幹宮司 鈴木一

酒は嗜む位で、まじめでよく働く人でした。ある日「だんな、赤ちゃんか、難しいですよ。」と産婆さんに言われたそうです。何も知らない父親は、ただオロオロするばかりで、何も手につかなかったそうです。すると母が「近所におがみやさんが有るから聞いてくれ」との事。その頃父は何も信心はして居らず、神様などはこの世に無いものと思っていたのですが、ワラにもすがるともりで聞きに行つたそうです。其のおがみやさんは、今で言う駄菓子屋を営みながら、御嶽山の看板を掲げる山の先達さんでした。背

が高く痩せ形の白髪を生やした先達さんは、よく近所の子供を集め、手のひらに何か字のようなものを書いて虫封じをしたりしていました。私もよくやつてもらったのを覚えていいます。其の後、先達さんの言うとおりに私の弟も無事生まれ、この時から父も先達さんの話を段々聞くようになりました。やがて自らも木曾、大峰山などで修行を行い奉神講を発足致しました。講員も増え、永く御嶽神社に参拝致しました。が、やがて大先達（父）も年には勝てず、二代目先達の襲名を御嶽神社の御師鈴木一宮さんの広間をお借りて行い、講名も寛麗会とさせて頂きました。その後二代目市村久寛先達を中心に春の代参を行ってまいりましたが、その先達もこ

の度お亡くなりになりました。先達は生前何か思いあまつた時等、一つ一つ御諭し下され、幾多の困難を乗り越えて頂いたのも、皆大口真神様の御陰だと言っておりました。其の御恩に報いる為に何か御礼がしたいとの事から、故先達の師である所の故市村大先達が五十年前も前から懇意にさせて頂いてる御師鈴木一宮様にお話を進めた所、快くご相談に応じて頂き、此度の大口真神像の奉納に至りました。この事は一宮様始め、宮司様、神事に係わる皆々様の深いご理解と、ご協力に依る事と存じ、故市村先達を始め寛麗会の皆様も大変喜んで居ます。

私も八十歳になり手足も不自由になりましたが、身の動ける限り御山に参りますので、寛麗会ともども末永くご指導の程、宜しくお願い致します。

奉納

この度、御奉納により、社地が整備されました。今後とも整備事業として、皆様方のご協賛をお願い申し上げます。

稲荷社前石段奉納 平成十八年十二月四日竣工



奉納者

練馬区石神井台沼辺御嶽講
講元 本橋 文夫
講員 三十三名
主幹宮司 天野 光紘

大鳥居前燈籠奉納 平成十九年五月十六日竣工



奉納者

東久留米市神宝町
神山生コン株式会社
代表取締役 社長 並木 弘國
主幹宮司 片柳 統一

大鳥居下参道石畳奉納 平成十九年七月十一日竣工



奉納者

清瀬市野塩
森田 正美
粕谷 初雄
片柳 文夫
統一共一

狂言開催



八月十三日鳥居前広場特設会場にて、NPO法人日本伝統芸術文化協会（代表 小倉宗衛氏）主催による一般市民のための狂言が行われた。大藏彌太郎氏を始めとする一門の方々の熱演で昼と夜の公演が行われ、昼の部は中高生を対象として入場無料で行われ、又夜の部は標高九〇〇メートル近い御岳山の山頂近くということで夏とは思えない涼しさの中熱心な方々が多数鑑賞にみえられました。

玉垣内の自由参拝について

「開かれた神社へ」でもふれましたが、ご本社両脇の垣根（玉垣）で仕切られた奥には、維新の立役者三名（副島種臣・本居豊頼・山岡鉄舟）が神砂のお力を詠い建立した「神山靈土の歌碑」などの石碑や、多くのお社が祀られております。今日までは大祭当日などの特別な日を除き開門しておりませんが、八月一日より開門し、どなたでも自由に参拝いただけるように致しました。大口真神社前に新たな「おいぬ様像」も御奉納いただきましたので是非ご参拝ください。開門時間は午前九時より午後四時までとなります。

